

保存版

長門市

泉川

洪水ハザードマップ

はじめに

水防法の改正に伴い、令和3年3月に山口県において泉川流域における「想定しうる最大規模の降雨で想定される浸水区域」等が新たに指定・公表されました。このことを受けて、「長門市泉川洪水ハザードマップ」を改定しました。このハザードマップを活用いただき、大雨により想定される災害を知ること、対策を考え、もしものときに備える一助となることを目的としています。

令和4年2月

長門市防災危機管理課

わが家のタイムラインシート

避難所情報	避難先の名称(施設など)	移動時間	対象とする災害(○を付ける)	備考
避難先①		分	洪水 土砂 高潮 その他	
避難先②		分		
緊急連絡先	氏 名	間 柄	電話番号	メ モ
避難先①				
避難先②				
避難先③				

わたしと家族の避難行動

平時の備え	【避難訓練】	月 日	訓練に参加
	【防災情報】		
	【避難準備】		避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備
	【その他】		
警戒レベル1	(2-3日前)	早期注意情報(警報級の可能性)	
警戒レベル2	(気象状況が悪くなる)	大雨・洪水注意報/氾濫注意情報	
警戒レベル3	発表 時ごろ	大雨・洪水警報/氾濫警戒情報	
警戒レベル4	見込 時ごろ	土砂災害警戒情報/氾濫危険情報	
警戒レベル5	(災害発生または切迫)	緊急安全確保	

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨の強さと降り方

大雨の浸水注意報	大雨の洪水警報	大雨特別警報
10ミリ〜20ミリ やや強い雨	20ミリ〜30ミリ 強い雨	30ミリ〜50ミリ 激しい雨
20ミリ〜30ミリ 強い雨	30ミリ〜50ミリ 激しい雨	50ミリ〜80ミリ 猛烈な雨
80ミリ以上 猛烈な雨		

風の強さと吹き方

平均風速	平均風速	平均風速	平均風速
10m/s以上15m/s未満	15m/s以上20m/s未満	20m/s以上25m/s未満	25m/s以上
●風に吹かれて歩くことになる。 ●傘が飛ばされ、歩行が困難になる。 ●横断歩道を渡る時は注意が必要。	●風に吹かれて歩くことになる。 ●傘が飛ばされ、歩行が困難になる。 ●横断歩道を渡る時は注意が必要。	●風に吹かれて歩くことになる。 ●傘が飛ばされ、歩行が困難になる。 ●横断歩道を渡る時は注意が必要。	●風に吹かれて歩くことになる。 ●傘が飛ばされ、歩行が困難になる。 ●横断歩道を渡る時は注意が必要。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりによく発生します。発生する予測は困難で、河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるような準備をする。

災害に関する情報

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
警戒レベル1	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保
警戒レベル2	危険な場所から避難	危険な場所から避難	避難指示
警戒レベル3	危険な場所から高齢者等避難	危険な場所から高齢者等避難	高齢者等避難
警戒レベル4	自らの避難行動を確認	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮 注意報
警戒レベル5	災害への心構えを高める	災害への心構えを高める	早期注意情報

※1市町村が災害の状況を把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
※2警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたため発令される場合があります
(注)避難指示は、令和3年の対法改正以前の避難活動タイミングで発令する

自分の身を守るために
早めの避難を心掛けましょう

土砂災害に関する情報や、市からの避難情報が発令されたときは、早めに近隣の避難場所などに避難してください。避難場所への避難が困難なときは、雨丈など、危険な斜面や崖から離れた場所に避難してください。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中、土砂災害発生の危険度が高まったとき、山口県と下関地方気象台が発表する情報で、今すぐ土砂災害が発生してもおかしくない状況です。

避難を開始するタイミング

あなたが避難しようと思ったとき、外は大雨など「外に出たくない」と思われる状況になっていることもあります。しかし身を守るためには、早めの避難(自主避難)が大切です。危険を察知したと速やかに避難しましょう。

雨の降り方が異常だ	山の様子がおかしい	土砂災害警戒情報が発表された	避難指示等が発令された

洪水に備えて

浸水深の目安	浸水深の目安	浸水深の目安
2階の屋根以上が浸水する程度	5m以上の区域	3.0m
2階まで浸水する程度	3.0-5.0m未満の区域	3.0m
1階まで浸水する程度	0.5-3.0m未満の区域	2.0m
床下浸水	0.5m未満の区域	1.0m

河川名	泉川
観測所名	泉川
はん濫危険水位	2.4m
はん濫注意水位	1.5m
水防団待機水位	1.0m

災害に備えて

どう避難すればいいの?

大雨・洪水の時はどうして避難	その他避難の時に注意すべきこと
●足元に注意 水中の浅瀬に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路は出来るだけ真ん中を歩きましょう。	●家に避難先、安否状況のメモを残す
●子供やお年寄りや安全に 足元の不安定なお年寄りや小さい子供はベビーカーに載せる方法もあります。	●避難するときの服装のポイント ●ヘルメット等 ●長そで、長ズボン ●長靴は水が入ると動かしづらくなるので、水の中でも脱げにくく歩きやすいものは履く ●軍手、手袋 ●非常持ち出し袋
●ひざまで水につかると歩きにくくなります。	

災害の種類

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫(浸水)

雨量の増加によってもたらされる氾濫(浸水)は、川から水があふれたため堤防が決壊して起こる「外水による氾濫(浸水)」と、街中の排水が間に合わず、水路などからあふれ出す「内水による氾濫(浸水)」の2タイプがあります。

外水による氾濫(浸水)	内水による氾濫(浸水)
大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防が決壊して川の水が外にあふれ出るとなる。氾濫が起ると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。	大雨の雨が降ると、雨の排水が間に合わず、街中の排水が間に合わず、水路などからあふれ出す。氾濫が起ると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。

土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況(土砂災害の前兆)に気付いた場合には、直ちに周りに安全な場所へ避難するとともに、市役所などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。土砂災害の危険箇所については、ハザードマップの土砂災害警戒区域を確認してください。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)	急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)	急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

土石流

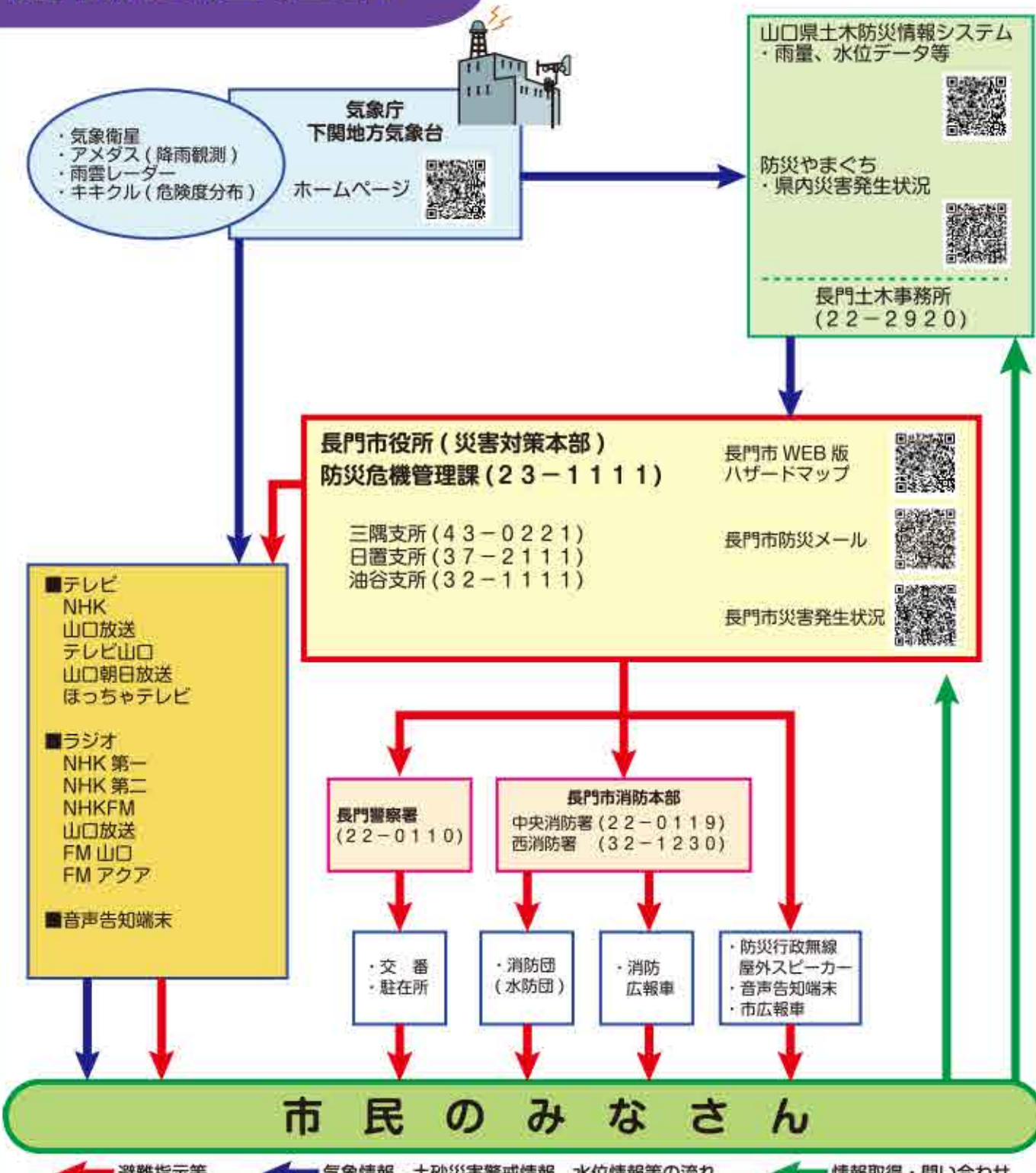
土石流	土石流	土石流

地滑り

地滑り	地滑り	地滑り

※上記は一般的な災害現象です。すべての場合において必ず起こるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

情報伝達経路



NTT災害伝言ダイヤル

災害時に被災地への電話・携帯電話がかりにくい場合でも、親戚・知人等への伝言を確認できるシステムです。

伝言の録音方法	伝言の再生方法
①「171」にダイヤル ②録音する場合は、「1」をプッシュ ③自分の電話番号をプッシュ ④メッセージを話す(30秒)	①「171」にダイヤル ②再生する場合は、「2」をプッシュ ③連絡を取りたい方の電話番号をプッシュ ④メッセージを聞く(30秒)

※サービスの開始は、NTTで決定し、テレビ・ラジオ等で報道されます。

非常時持出品の準備&チェック

いざというときに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)	非常時持出品(例)	非常時持出品(例)	非常時持出品(例)
携帯ラジオ・懐中電灯 ラジオ 懐中電灯(出来れば一人にひとつ) 電池(多めに用意)	救急医療用品 常備薬 絆創膏 包帯 消毒薬 救急セット 救急箱	貴重品 現金 印鑑 重要書類 お守り お守り	感染症対策用品 マスク 消毒液 体温計 手拭き紙 消毒薬

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェックしましょう。

飲料水	非常食品	燃料	その他
飲料水(ペットボトルや缶詰など)	お米 缶詰 缶詰 缶詰 缶詰	ガソリン 灯油 ガスボンベ	生活用水(風呂・洗濯などに貯め) 毛布・寝袋・寝具類 乾電池 懐電 懐電

非常時持出品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの
携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、筆記用具(マジックなど)スcoopなど。

阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。